

### 第3回磐田市子ども憲章制定委員会 会議録

開催日時 : 平成26年12月24日(水) 9:30~11:30  
出席者 : 委員13名  
事務局 : 5名

#### 1. 開会

#### 2. 委員長あいさつ

前回の会議以降事務局で検討していただき、今日お示しする案まで、何とか漕ぎつけた。お  
おかたの案をとりまとめていきたい。

#### 3. 議事

##### (1) 磐田市子ども憲章(案)について

子ども憲章(案)について事務局より説明

委員長: 憲章として掲げるものの3つの案をお示しいただいたので、また組み合わせてもよいが、  
これについてのご意見、ご感想等お聞かせいただきたい。

委員: 趣旨、背景の中に「準備期間」とあるが、大人から子どもへの提示ではあるが、子どもた  
ちは今一生懸命生きていて、その素地を作るために頑張っているのもう少し子どもに  
寄り添って、子どもの仲間のことが入っていてもよいのでは。家族を愛するとか故郷を愛  
するというのが、どうしても親世代、祖父母世代の背景という感じがする。子ども自身の  
コミュニティがない、子ども同士の異年齢の関わりがないという点が盛り込めたらと思う。

委員長: ご指摘のとおり、この趣旨・背景というのは軸足であって、明らかに大人目線であるので、  
そう感じられたかもしれない。

大人からみたら、明らかに準備期間であり、その期間をどのように過ごすかが重要だとい  
うようなことを言っている。

委員: 磐田に限ったことではなくて、日本全体、社会のなかでいえること。今回磐田市の子ども  
憲章をつくるなかで、「磐田」ということを意識したものを前面に出したほうがいいのか。  
「磐田」という言葉が入っていれば、磐田のものだということが意識できる。

委員: 行動指針は「道徳的文体のイメージ表現は避ける」とあるが、まさにこれから小学校にお  
いても道徳が行われようとしているときに、「道徳的表現は避ける」というのはどうい  
うことか。

事務局: 表現の仕方であって、上から目線でやらせるということではなくて、一緒に取り組んでい  
こうというような表現でという意味であり、内容的には礼節、感謝というような道徳的なも  
のになる。

委員: そうであれば、この言葉は変えたほうがよい。これから道徳に取り組もうとしているのだ

から。

委員長：憲章とするのは、1文であるので、組み合わせてもよいが、あまり長くてもと思う。そういったことを踏まえていかがか。「磐田」があったほうが良いというようなことを踏まえて。それぞれの文章のなかの言葉をどう理解するかが問題である。全体のイメージとしてどう響くかもイメージしていただいて。

委員：「磐田を思い」というのが分かりづらい。「磐田に生きる自分を大事に」とか「磐田に生まれた」ということを大事にということなのか、こども会議の意見から、子どもたちは、磐田ってのんびりしていいというようなことを確かに思っているようである。都会だどごみごみしているけど、磐田はのんびりしていいというようなことは言っているので、「磐田の大地」も悪くないが、磐田という言葉を入れながら、磐田の良さを一緒に入れ込めたらよい。磐田を離れた時に、磐田ってこんなところだったとセットで思い出せるように。そこに生きる自分たちが・・・と組み合わせたら。

委員：逆に「磐田」を付けるとそれが強すぎてしまって、他がぼやけてしまうのではないか。故郷というのは自分自身がよく分かっていて、磐田を離れ、そこが故郷になるかもしれないし、また磐田に入ってくる人が、ここが故郷と感じてくれるかもしれない。磐田のこども憲章はもちろん自分達のこども憲章だと分かっている。分かりやすくてもよいが、響くかどうか。

委員：大地という言葉はとても良いと思うので、「故郷の大地を踏みしめ・・・」とし、「たくましく」はイメージがとても良いと思う。そこに「思い」「思いやり」「助け合う」というようなことを付けながら締めくくったら、と思う。故郷はとてもよい言葉だと思うので是非入れていただきたい。

委員：「磐田」という言葉は入れていきたい。

委員：言葉から受け取るイメージというのは様々であって、例えば、「大地を踏みしめ」という言葉から、単に足を踏み鳴らすようなイメージを受ける人もいるかもしれないし、磐田というところにしっかり根ざして生きていくというふうにイメージを膨らませる人もいると思うから難しいが、せつかく磐田のこども憲章であるので、「磐田」という言葉を入れたほうがよいと思う。人それぞれ磐田の良さをあげることができるので。最初にこの案を見たとき、「明日に向かって生きよう」というのが、ポーっとしていても明日に向かっていくわけだし、「明日を楽しみに」少しでも明日に向かって自分を高めていくというイメージのほうがよい。

委員長：人のイメージというのは様々なので、憲章の理念の部分はシンプルで幅広くとれるような表現にせざるを得ない。

全国にいろいろ子ども憲章はあるが、地名を入れているところは少ない。ほとんどないと思う。

委員：「磐田の大地」というのは大変良いと思う。歴史、自然、祖先など受け取る人によっていろいろな想像ができるので、良い。「思いやり」は、こども会議のなかでも「思いやりのある」という言葉は多数出ていたと思うので、できれば、「磐

田の大地を踏みしめ、たくましく、思いやりに満ち・・・」というような言葉を入れていただくと良いのでは。

委員：このあと、ここに行動指針がつながるわけなので、あまり具体的でなくイメージで良いのかと思う。私は、攻めと守りという視点で考えた。守っていかなくてはならないもの、逆に今の時代攻めていかなくてはいけないものがある。「磐田の大地を踏みしめ」のなかに、歴史、文化など守っていくべきものが入っている。攻めていくという点では、「明日に向かって」というところで表現できるのでは。「たくましく」のなかには、思いやりだとか感謝も含んでいるのではないかと思う。捉え方の違いはあるかもしれないが。

委員：シンプルなのがいいと思うが、「磐田」という言葉はやはり磐田市のこども憲章なので、他市との区別をするために入れたほうが良いのではと思う。「踏みしめ」と「たくましく」がつながる言葉だとすると両方なくても良いのではと思う。人とかかわりの大切さを盛り込むには、「思い」とか「思いやり」といった人との関わりの部分を入れていきたい。

委員：磐田の教育目標が、「ふるさとを愛し、未来をひらく、心豊かな磐田市民」なので、それとあまり離れているのもよくない。「踏みしめ」と「たくましく」は、ある面でひとつかという部分と、人間として社会のなかでどうあるべきかという部分はあっても良いと思う。人との関わりのなかで自分がどう生きていくというところ。「踏みしめ、たくましく」というと自分がどう生きていくかということなので。磐田の教育のなかでは、「心豊かな磐田市民」という言葉になっているが。「明日に向かって」というのは、郷土、故郷と親があって、自分らしさ、アイデンティティをもった一人の人間がこれからどういうふう生きていくんだという点では、近いところがあるかもしれない。

委員長：「磐田の大地を踏みしめたくましく・・・」に、人との関わり、思いやりということをどう補強していくかということになるかと思うが。「踏みしめ」と「たくましく」は同じ意味ではないと思うが。

委員：故郷という言葉は、教育目標のなかに入っているので、「磐田の大地」で良いと思う。「たくましく」というのは、磐田はスポーツの町である。そういう意味で「たくましく」をいれていきたい。

委員：「思いやり」かどうかはわからないが、周りに仲間がいたり、人とともに生きる感じが少ない。明日に向かって生きようが未来に向かって生きるという意味あいではいいと思うが、そこに明日が楽しみだねって言える仲間がいるという感じがでてこない。そばに仲間がいる、誰かがいるという感じを「磐田の大地にとともに立ち」とか。

委員：子どもに一番分かりやすいのがいいと思う。確かに「楽しい」にはいろんな意味があるが、楽しいためには環境づくりが必要で、そのためには苦勞もある。そのためにはどういう行動をして、いい環境づくりをしていくか、大人にも発信でき

ると思う。前回の会議のなかで、「楽しみ」というキーワードを入れた。楽しいだけではないが・・・と思うが、やはり大人も楽しくなければというところもある。自分だけでなく、相手も良くならなければいい環境にはならない。

委員：「磐田の大地を踏みしめ」というのは自立ということで、このなかには共生ということがなくて、自立と共生をひとつの文章のなかに入れていくのは難しいのは。小学生・中学生のことを考えると、磐田のこども憲章として、やはり人との関わりというのは、みんなで手をつなぐとか笑顔で生きるというようなことかと思う。人との関わりが薄くなっているというなかで、それについてのこども憲章を考えるのであれば、「たくましく明日に向かって・・・」というのは、ありきたりである。明るくシンプルに「手をつないで、笑顔で進んでいく」というような子どもたちに分かりやすいものがよいと思う。

委員：見て疲れる理念では、心が参ってしまう。教育・保育の部分ではスローガンの言葉に言葉を羅列するが、見て心が疲れる。強さがすごく出ていて、それは大人の願いである。子どもがどこに寄り添えるか。たくましくなければ、だめですか？と思う。弱い子がいて、それでもたくましくなければだめですか？と思う。弱い子がいても明日をどうやって生きていくかという行動指針に降りていってほしい。昔と今は違うが、でも現実弱い子はいる。疲れてしまう理念、ねばならないということだけでなく、やわらかさも入れていただきたい。「踏みしめて」「たくましく」というのはイメージ的に強い。

委員：「磐田の大地・・・」の文に、少し人とのつながりを補強する、自立と共生を入れて柔らかくする。

委員：少しきついかとも思うが「磐田の大地を踏みしめたくましくともに手を取り明日を楽しみに生きよう」というふうには、すこし柔らかさをに入れていってはどうか。前段はすこし勇ましい言葉が並ぶが。長すぎるか。

委員：「磐田の大地を踏みしめ」が最初にくると強くなるのでは。例えば「ともに手を取り」から入って、「磐田の大地」が後半にくるのはどうか。順番の話だが、書いてみるとどういう印象になるか。出来上がって、見たり、言ったりすることを考えると順番は大事だと思う。

委員：紙に書いてみて、順番を入れ替えてみてはどうか。

(行動指針(案)について事務局より説明)

委員：具体的な行動に移せるのが半分くらいしかないという印象。「人に感謝しよう」とはどういうことか。子どもたちの意見を聞いていて思ったのは、自然や環境を大切にしようと言って、では何ができるか尋ねると、「ゴミのポイ捨てはしない」じゃあそこにゴミが落ちてたら拾えそう？と尋ねると「えーっ!？」という感じである。子どもたちの行動指針として使うことを考えると、もうちょっと

と落とし込んであげないと、中学生でも目の前のゴミが拾えそうか尋ねると「えーっ!？」という反応で、大人もそうだと思う。「感謝しよう」であれば、それを「ありがとうで伝える」というところまで落として表現したほうが、自分が保育・教育の現場にいた時に、例えばこれを見て、学級活動の時間などに、これを見て具体的に何ができるかみんなで考えてみようという時間が取れるのであればこれでも良いが、実際今の保育・教育の現場でそういう時間がとれるかというところと難しいと思うので、それを見たらやれるというものの方が良いと思う。例えば礼節ということであれば、席を譲るとか、順番を譲るとか具体的な行動にした方が良いと思う。

委員長：発信していく際に、多少解説を付けるのですよね。

事務局：それぞれの行動指針の説明を添えていくこと、また家族の中で取り組みを考えてもらうことを考慮して、幅を持たせてある。

委員：子ども会議で出た意見で家族で話す時間は全然ないという意見が多数出ている、家族とケンカしたくても合わないからケンカできない、親とぶつかるのがめんどくさいからケンカもしないというような意見が多々出たなかで、家庭でそういうことができるのか、行動に移せることがとても大事なことで、いろいろ子どもの様子を聞いたり自分が見た中では、具体的に行動に落とし込むように取り組んでくれるのか、せっかく作っても使われなかったら意味がないので、そこで家族で時間を持ってもらえるかというところを持ってもらえないと思う。

委員：ないからこそ、文字であげて、それができるできないは後のことで、できることばかりあげてしまうと偏ってしまうので、どこまで掘り下げていくかということと、もう1点は行動指針の4つの視点というカテゴリがいくつ出て、行動指針の数のバランスがどうなるのか。表にしたときに整理しやすく、選びやすいのでは？

委員長：カテゴリごとの指針の数は必ずしも均等になるとは限らない。最終段階で調整すればよいのでは。

先ほどの意見は非常に重要な問題である。説明にあった背景とか趣旨の中に出てきた様々の問題のように、そうした子育て環境がかなりの部分できあがってしまっている。そういうことによって離婚であるとか様々な問題を含めて、今の教育現場の問題につながっている。こども憲章により、家庭に飾られなかったら、地域ぐるみで、公会堂や地域の掲示板に掲示されるという形を作っていく。地域全体でもっていくというのが要の部分である。

委員：こども会議を傍聴させてもらったが、「お母さん、ご飯は必ず作ってもらいたい」とか「お父さんとお母さんケンカしないでほしい」とかそういう意見がすごく多くてびっくりした。だから、こういうことをして家庭で話し合いを持ってくれるところがどれだけあるだろうかとおっしゃったが、そういう家庭を少しでも多くしてもらいたいから、こういう取り組みをして、月の目標にして、あなりたい

と、子どもだけではなく大人にも向けていきたい。

委員長：最終的には市民の意見も募集するので、それも踏まえて検討していただきたい。

事務局：行動指針に込めた思いや具体的な行動につなげるためのこども会議での意見を入れながら、市民に公表していけると良いと思う。事務局として案を示させていただくについて、こども憲章も行動指針も磐田の子どもたちにこう育ってほしいという手段である。少し別の話になるが、小学生にジュビロ磐田の一斉観戦を行っている。あれもジュビロの試合を観戦することが目的ではなくて、将来にわたって磐田を思う、これだけの宝があるということを見つけるためである。しっぺいにしてもひとつの手段として磐田を思う、オール磐田というつながりになってくる。それと同様にこども憲章、行動指針も例えば家族の中では、カレンダーを見ながら、今月はうちはこれをやろうというまとまりにつなげていける手段になるかと考えている。具体的なものがそれぞれの地域、家庭、学校の中で、いろいろな場面があるが行動しやすいような表し方になるよう工夫はしていきたいと考えている。そうした思いのなかで提案させていただいた。もう少しご意見あれば伺いたい。

委員：こども憲章に対して、「行動指針」でないといけないうか。「行動指針」というと「〇〇しよう」という表現になりますよね。自分のなかでも迷いながら話しているが、やはりつまらない、印象に残らない。なかに含まれる思いはすごくいいと思うが、ではどうしたら残るかという、例えば「物を大切に、丁寧に扱おう」というのがあるが、ここでそういう表現でなく、「物の命」物にも命があるんだということになると、解釈するためには、そこからワンクッション子どもの思考力が必要になる。「相手の気持ちを考えた温かな言葉遣いをしよう」だって「その一言に励まされ・・・」となる。そういう表現でいくとカレンダーをめくっていて、カレンダーにしがいがある。そうすると、子どもがずっと使えるかどうかは別の話だが、こうやってストレートに書くよりは・・・。口には出さないが、心の中ではありがたうって思ってるよ・・・というような表現。行動指針となるとこうした名言集のようなものとは違うが、行動指針という言葉を変えれば、磐田の行動指針って違うねと、というのがあるかと思う。

委員長：当たり前でいいという意見と表現を考えていくと無限に出てくる。最初そういったインパクトのある表現にしようかと思った。当たり前の表現では残らないと思った。

カレンダーを作るまでには時間がまだあるので、子どもたちにキャッチフレーズを募集することもできるのでは。

委員：行動指針と書いてあるが、なかに行動目標になっているものがある。子どもたちは確かに行動目標の方が具体的で動きやすいと思うが、やはり理念を受けての指針なので、あまり具体的ではいけないのかと思う。したがって、指針があり、子どもたちの行動目標があるというふうに整理したほうがすっきりすると思う。

委員：行動目標に各家庭ですということか。

委員：行動目標は行動指針を受けて、具体的な目標を示してあげれば、あとは各自がイメージを膨らませて、年齢的なものもあり、小学生の目標と高校生の目標は違うが、具体的な目標を示してあげればイメージできるのではないかと。

委員：カレンダーのイメージとして、週替わりになっていて、週ごとにウイットに富んだフレーズが書かれていて、しっぺいも描かれているというのはどうか。

また、本当に大事なことは幼稚園児にとっても高校生にとっても同じだと思う。絵本は子どもの読み物だと思う大人には、いい絵本ほどすべての人に。本当に大事なことは小学生でも幼稚園でも高校生でも一緒だと思うので、それができればいいことにつながっていくということが書いてあればいいのではないかと。ありがたうと言う、とかゴミを拾うは幼稚園児でも大事だし、高校生でも大人でも大事なこと。本当に大事なことは年齢は関係ない。本当に大事で年齢に関係なくできることを厳選して、みんなが取り組めればそれがいいことにつながっていく。

委員長：ここに書いてあることは私にとっても大事なこと。子どもだけではなくて、大人にとっても大事なこと。ここでいうには、こういう表現で市民投票にかけていいかどうかということ。

委員：いろいろ出ているがうまくまとまっていないという印象。例えば「家族で団らんしよう」というのと、あえてそこに「テレビを消して」と具体的に入っていると、どっちに揃えていくのか。

委員長：食事時でも団らんしないので、せめて食事時ぐらいは・・・ということ。

委員：団らんというのがふわっとしていて、テレビを消すというのが具体的。

委員：どっちを出していくのがいいのか。

委員長：最初は「ご飯のときはテレビを消して、家族で食事をしよう」家族で食事をしようは、孤食を止めようが目的なのかという議論があつて「団らん」ということになった。家族で食事をするを行動指針にするのはおかしくないか。「団らん」でしょう、ということになった。

委員：私の理想論でいうと、今「みんなのためのルールブック」が流行っている。大人も子どもも読めるということで流行っている。ああいう感覚かと思ってみている。こういう行動指針が噛み砕かれていて、1つ1つが分かりやすい。これについて簡単な説明があつて、まさにこういった感。子どもたちがアレンジしてルールを決めた。みんなの学級の30のルールブックとして決めた。そんなイメージをしている。表記は違うがそんなイメージであるので、1つ1つ見ていったときに、斬新な表現で受けている。教育界のベストセラーである。

委員：大事なことなんだけど、このままでは心に残らないのではないかと。今までとそんなに違う必要があるか。言っている内容は30年、40年前と変わらない。それを今になってもう1回やり直すということは、今の人に伝わってやりやすいようにするためにやっていると思うと、このままだと今までと同じではないかと。大事

なことは変わらないし、それをどう本当に行動に移せるか、それについて友達同士、親同士で話せるようになるかということを決めるということ求められていると思う。ずっと昔から大事なことを今取り組みやすいようにすることが求められている。と考えるとこれで取り組めるのかと思ってしまう。

委員：私は逆に、その大事なことが忘れられているし、若い人たちは大事なことを守ろうとしないから、その動機づけで昔から言われていることでも表示した方がいいと思う。市民からの意見募集の内容をみると、いろんなものをふたつみつつ合わせてしまってぼやけてしまっていないかと思う。「笑顔で元気なあいさつ」「誰に対してもありがたいの気持ち」非常にわかりやすい。こういう行動指針にするとあれもこれも入れたいなということで、ちょっとぼけてしまっていないかと思う。これを出してもらって、多くの市民の方の意見をもらって決めればいいのか。すべての人の考えを網羅しようと思っても結論は出ないと思う。少なくともこの行動指針は、今磐田でこういうことを守ってほしいということが根っこにあると思うので、それを素直に表現すればいいと思う。

委員長：最終段階では、ふたつのものを合わせたりということがあるかもしれないが、これでスタートしてみてもどうか。説明や具体的にどうするかということを加えていくということ。

委員：市民が、行動指針をみてバラバラに入っていると、なかなか選択できないと思う。以前カテゴリ別という表現をしたが、その人ごとの解釈と理解が違うので、キーワード、例えば礼儀とか責任とか命というのであれば分類できるのではないか。キーワードとして少し分類して、集めておいた方が選びやすい。

委員：委員のみなさんの入れてもらいたいカテゴリーはすべて含まれているか。漏れているものはないか。

委員：この中で、やろうとか、言おうはあるが、聴くということが入っていない。相手の話を聴こう。子どもたちが自分の話を聴いてほしいととても言っていた。子どもたちがそういっていたから入れるということではないが、こうしてほしい、ああしてほしい、が多く、受け取る側の人間の考え方、伝えよう、していこうが多く入っていて、相手が伝えてきたときの受け止め方が入っていない。例えば「相手の話を最後まで聴いて、それから自分の考えを伝えよう。」「相手の意見や思いはまず最後まで聴いてみよう。」

事務局：20項目提示しているが、それが21になっても構わないので、加えさせていただく。

委員長：この辺をベースに市民投票にかけ、最終的に決めていきたいと思う。

(理念について)

委員：弱い子には厳しいという意見があったが、「向かって」というのは確かに厳しい言葉である。

委員：「生きる」と言い切らず、「生きよう」のほうが良い。

委員：それぞれの会場で、子どもたちから必ず「思いやり」が出ている。

委員長：その言葉をそのまま使うかは別にして。「思いやりに満ち」とするか。

委員：分かりやすい表現、身近な言葉としたい。

委員長：誰に分かりやすいものとするか。基本的にキャッチフレーズである。

委員：「思いやり」と「ともに手を取り」は似ている。「思いやり」は心の部分、「ともに手を取り」は手をとるという行動の部分。「一緒に手を取り」でも良い。

委員：「磐田の大地を踏みしめ」は堅いので、先頭のほうが良い。中に入れるとぼけてしまう。

委員：歴史とか伝統とか「磐田の大地を踏みしめ」が過去、「ともに手を取りたくましく」が現在、「明日を楽しみに生きよう」が未来。

委員長：「磐田の大地を踏みしめ たくましく ともに手を取り 明日を楽しみに生きよう」

委員：国で言っている「生きる力」が「たくましい」という言葉になっていると思うが。

委員：「磐田の大地でたくましく」は？「ともに手をつなぎ」「手をとりあい」？

委員：「磐田の大地にたくましく」

事務局：「手をつなぎ」のなかに「ともに」が入っているのでは。

委員長：「磐田の大地にたくましく ともに手をつなぎ 明日を楽しみに生きよう」

事務局：今後の流れについて。本日理念と行動指針について協議していただき、制定委員会の中で、案は決定したと理解している。次に庁内的な手続きもあるが、1月上旬に庁内の検討委員会を開催し、状況報告させていただく。庁内の組織の決定機関として、経営会議に諮り、了承を得て、2月1日から20日にかけて市民投票を実施していく。庁内の検討委員会等の中で、いろんな意見が出るだろうし、最終決定ということではなく、こんな形で市民投票をしていくというのは、委員のみなさんにはお知らせさせていただく。

投票の方法はインターネットのホームページ、各公民館、学校現場等を考えている。その投票結果を受けて、3月上旬に制定委員会をもう一度開催させていただき、市民投票の結果を踏まえ、再度検討していただき、最終的に決定していくというように考えている。

最終的には年度内に決定をして、市長決裁となるが、4月になって啓発を進めていくことになる。

11月8日に、合併10周年の記念式典が予定されている。ここでは、こども憲章の報告を式典の中でする予定でいる。こども会議に参加してくれた子どもたちにも何らかの形で関わってもらいたいと考えている。それとは別に、ポスターの募集等も考えている。

市民に対して投票していく段階で、理念については出して、行動指針を選んでもらうので、1月下旬に市長からの発表という形で出していく予定。

啓発については、各交流センターや自治会での啓発、憲章碑の作製も考えている。ご意見をいただきたい。制定委員会は、来年度もう一年任期としてお願いしたい。

## 8. 閉会